

第8回 幼児教育実践学会 2017.8.19

幼児教育における健康教育を核とした
「いのちの教育」の実践
— 幼稚園での取組み —

○粉川 妙子

尚絅学院大学 総合人間科学部 子ども学科

東北大学大学院歯学研究科小児発達歯科学分野

○田高 美恵子

学校法人東北文化学園大学久慈幼稚園園長

研究の背景

少子高齢化、情報化時代において、子どもたちの健やかな成長発達は必ずしも保障されているとは言えない。社会環境の著しい変化やライフスタイルの変化により、様々な健康問題が顕在化してきている。

子どもの健康問題は身体的な疾患だけではなく、いじめや不登校、保健室登校等、心の病気など複雑多様化しているのが現状である。



子どもたちが複雑な社会環境における様々な問題に直面した時に、対処できる力を育む必要性が強く求められている。

研究の目的

幼児期からの「いのちの教育」を実施することで、小学校のいのちの教育（健康教育）に繋ぐと共に、生涯の健康（心と体を育む）の基礎を培うことを目的とする。

単に知識だけの教授ではなく、実際に自分で考え行動できる能力を幼児期から育てる。

「いのちの教育」とは

- “子どもたちの豊かな心を育む”
“自他の生命を尊重する心を育む”
「生きる力」を育むに繋がる（文部科学省） 2008年
- “自分のいのちを大切に思う心を育む”
自尊感情を育む→他者のいのちへの尊重の心
（近藤 卓） 2003年

自分のいのちを大切に思う心を育むための教育であり、他者のいのちへの尊重にも繋がる教育。この生をよりよく生きるために、健康教育を核とした心と身体全体を含めた教育。

【幼児期における「健康教育」の重要性】

幼児期は生きる力の基礎を
身に付けていく時期

心情

態度

意欲

健康教育
(心と体を育む)

幼児期

生きる力の基礎

小学校

- 自分のいのちを大切にする
- 他の人のいのちにも思いをはせ、大切にする
- 自分のからだは自分で守る

幼稚園教育要領・保育所保育指針 保育内容【5領域】

本研究の核となる「健康」領域

幼児なりに自分の体を大切に
する気付き

「健康」
心身の健康に関する

病気にかからないために必要な活動を自分からしようとする態度を育てる

「表現」
感性と表現に関する

自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う
“いのちは大切”

「人間関係」
人とのかかわりに関する

「言葉」
言葉の獲得に関する

「環境」
身近な環境とのかかわり

「健康」

心身の健康に関する

自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。



- 幼児なりに自分の体を大切にする気持ち。
- 手洗い、歯みがき、うがいなど病気にかからないために必要な活動を自分からしようとする態度を育てる。

研究方法

1. 対象 : K幼稚園 106名
年少(3歳)年中(4歳)年長(5歳)
2. 期間 : 2013年7月～2015年1月
3. 実施方法: 各年齢毎に健康教育実施
(年少は15分、年中と年長は20～30分)
4. 分析方法: 記述式アンケート
(保護者と幼稚園教諭)
幼稚園児の言動の変化を質的評価

倫理的配慮

- 幼稚園において、保護者には書面にて研究の趣旨を説明し、調査票の提出を持って同意を得た。
- 幼稚園教諭に対しては、研究の趣旨を口頭で説明し、協力を得た。
- 保護者、幼稚園教諭とも無記名とし、不利益を生じないこと、データは本研究以外に使用しないことを説明。

「いのちの教育」授業風景



【～歯みがきじょうずかな～】



どのくらいの手ですればいいのかな？
“こちょこちょみがき”でね！

【かぜ・インフルエンザのおはなし】



手あらいの練習

ウイルスはどこまで飛ぶのかな？



【うがいの練習:ま・ほ・お~】



“まほお・・・”3回するよ!



【たべものののはなし】 ～赤・黄・緑のたべものは？～

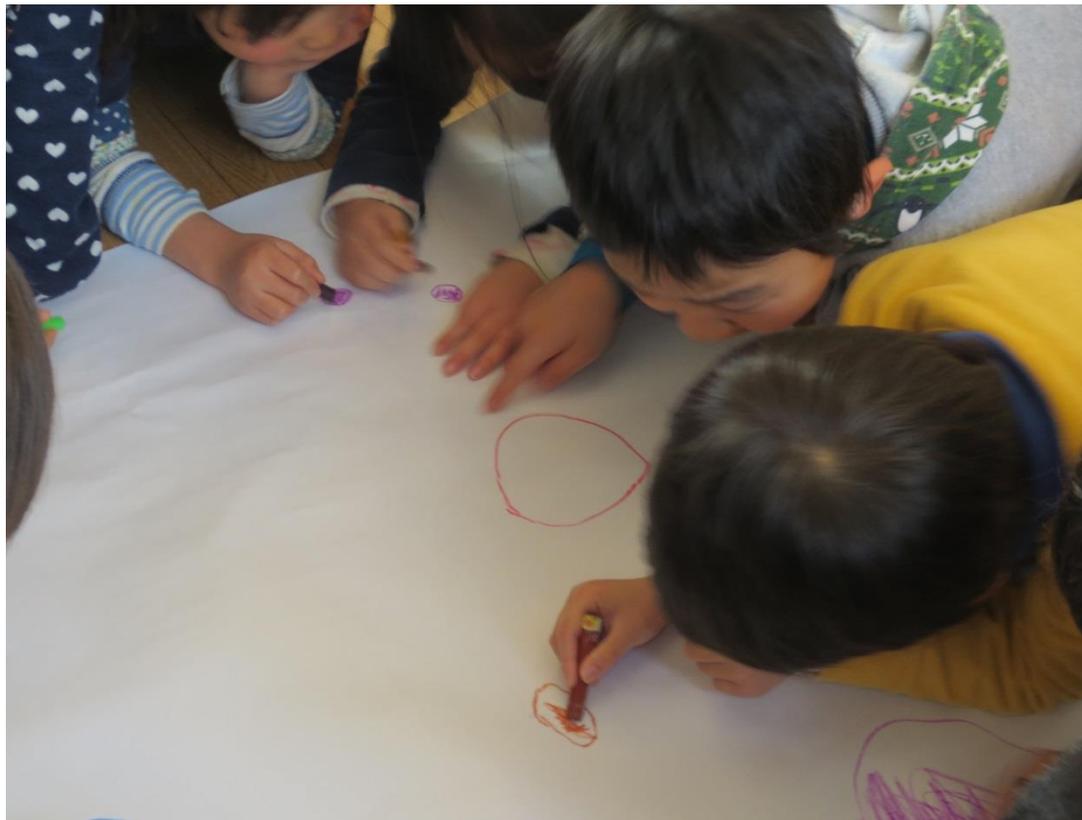


なぜ、赤・黄・緑のたべものが
だいじなのかな？



“うんち”ってどうしてできるの？
“おなら”はどうしてでるの？





【いのちのひみつ】

“いのち”のさいしょの
さいしょの大きさは？



結 果

- H25,26年度
K幼稚園の保護者、幼稚園教諭
アンケート結果

「いのちの教育」後の幼稚園児の
言動の変化について

アンケート実施内容(H25,26年度)

1. **K幼稚園 保護者** 2. 実施回数 平成25年度=6回 平成26年度=6回
3. 回答票 平成25年度=283票 平成26年度=228票 合計=511票

年度回数	回答数(票)	実施月	テーマ
平成25年度 1回目・2回目	93	平成25年7月	年少：歯みがき、手洗い、うがい 年中・年長：プライベートゾーン、けがのてあて
平成25年度 3回目・4回目	98	平成25年12月	■かぜ・インフルエンザの予防 年少：手洗い、うがい 年中・年長：手洗い、うがい、手洗いチェッカー実験 目と耳のおはなし
平成25年度 5回目・6回目	92	平成26年2月	年少・年中：たべるとからだはどうなるの？ うんちのおはなし 年長：いのちのひみつ、おへそのひみつ
平成26年度 1回目・2回目	72	平成26年7月	年少：歯みがき、手洗い、うがい 年中・年長：プライベートゾーン、けがのてあて
平成26年度 3回目・4回目	78	平成26年11月	■かぜ・インフルエンザの予防 年少：手洗い、うがい 年中・年長：手洗い、うがい、手洗いチェッカー実験 目と耳のおはなし
平成26年度 5回目・6回目	78	平成27年1月	年少・年中：たべるとからだはどうなるの？ うんちのおはなし 年長：いのちのひみつ、おへそのひみつ

学年別集計 (H25,26年度)

単位:人(%)

	はい	いいえ	未回答	合計
年少	152 (81)	31	6	189
年中	133 (78)	32	6	171
年長	121 (80)	23	7	151
合計	406 (79.5)	86 (16.8)	19 (3.7)	511

アンケート結果(H25,26年度) 数値データ

教育効果の判断に、授業後の園児の変化を解析

家庭でのハミガキ・手洗いなど、授業内容に関する行動変化の有無で効果を判断

・ 年度別学年別「変化の割合」集計表

※単位=%

	はい		いいえ		未回答		合計	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
年少	84.7	72.3	13.7	21.5	1.6	6.2	100.0	100.0
年中	81.9	74.7	12.5	23.2	5.6	2.0	100.0	100.0
年長	88.5	68.8	9.2	23.4	2.3	7.8	100.0	100.0
	85.2	72.4	12.0	22.8	2.8	4.8	100.0	100.0

「はい」と回答 ⇒ 年少=84.7% 年中=81.9% 年長=88.5%
平均85.2% おおいに効果があったと判断

K幼稚園 保護者アンケート結果

「変化あり」で表現された単文の要約 (一部紹介)

保護者の感想

○しっかりと石鹸で洗うようになった ○ごはんの前に自分から進んで手を洗うようになった ○一緒に手洗した時“こもこうやって洗うんだよ”と教えてくれた ○手洗い、うがいの方法を身振り手振りで教えてくれた ○うがいをする時“ま・ほ・お”と言ってしていた ○どうしてマスクをするのかを教えてくれた ○お姉ちゃんが咳をしていた時に“お口に手をしてね”と注意をしていた ○教えてもらったことを絵に描いて見せてくれた ○帰宅後の手洗いにやる気が見られしっかり洗っていた(まるでバイ菌が見えているように) ○小さい時期に健康について学ぶことができとても良かった ○インフルエンザ予防接種を嫌がっていたが、お話を聞いた後自分から行くと言ってくれたのに感動した ○子どもたちの目線で分かりやすく視覚と記憶に残す説明とはこういう事と感じた ○これからも色々なことを繰り返し教えてほしい

保護者アンケート結果

＜幼稚園児の具体的な言動の変化＞

【保護者アンケート記述回答から導き出されたカテゴリー】

カテゴリー	サブカテゴリー(件数)
自分の健康への関心	手洗い(15)・うがい(11)・歯みがき(8) 予防接種(7)・けがの手当(3)
健康に対する積極的行動	手洗いをする(35)・うがいをする(33) 歯みがきをする(14)・マスクをする(5)
健康についての知識の確認 と相互理解	手洗いの話(66)・うがいはなし(12) マスクとかぜの話(44)・歯みがきの話(24)
健康への継続的な行動習慣	手洗いの継続(27)・うがいの継続(18) 歯みがきの継続(12)

K幼稚園教諭アンケート結果

※ 変化あり100%

「変化あり」で表現された単文の要約 (一部紹介)

幼稚園教諭 の感想

- お話を聞いた後から、子ども同士でも“爪も洗わなきゃ”“手首も！”などと声をかけ合う姿が見られた
- 手洗いがとても丁寧に行えるようになった
- トイレの後に手洗いをする子やうがいをする子が増えた
- マスクの話聞いた後、鼻を隠すことを意識している様子が見られた
- 時間配分について、年少～年長まで集中して話が聞けるちょうど良い長さだった
- “まほお”の合言葉が分かりやすかった
- 教材等が工夫されていて子どもたちが楽しく学ぶことができた
- 子どもたちの指導方法や話し方が勉強になった
- 健康に関するお話の継続性の必要を感じた

「いのちの教育」の成果と課題

【成果】

1. 保護者と幼稚園教諭のアンケートの回答から、子どもたちの健康行動に変化。幼児期から科学的な根拠を基にした成長発達レベルに応じた教育の必要性が示唆された。
2. 幼児期でのいのち(健康)の意識を育てることが、小学校での「健康教育」に繋がると考えられた。
3. 「いのちの教育」を園児のみではなく、保護者、地域関係者(学校の先生・保健師)にオープンとしたことの効果期待された。

【今後の課題】

1. 単発の「いのち教育」で終わることなく、確かな教育のねらいの基で、継続した教育が計画的かつ組織的に実施されることが求められる。
2. 教育現場の幼稚園教諭と保護者との連携、さらには地域の学校や関係機関との連携も視野に入れた「いのちの教育」の実施が必要である。
3. 幼児を対象とした教材教具・教授法の開発が必要である。